



文部科学省 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業

関西学院 WWLC 構想

“AI活用 for SDGs” 「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」

～ Society5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト ～



関西学院高等部
KWANSEI GAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL

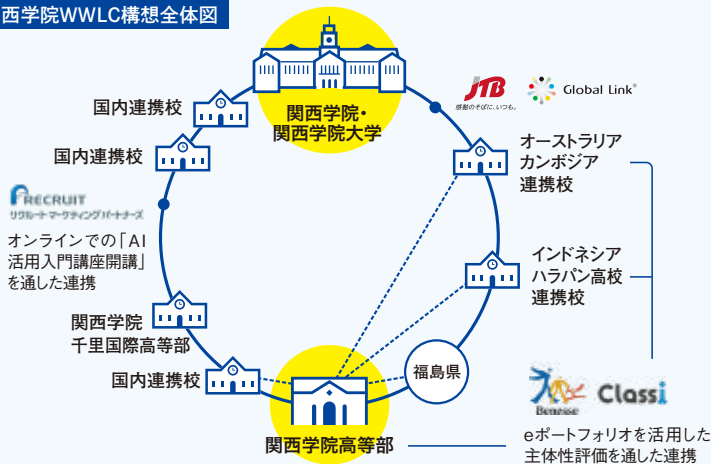
関西学院 WWLC構想

[構想名]

“AI活用 for SDGs” 「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」 ～Society5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト～

これまでのSGH事業の取り組みや教育資源を活用し、先進的なカリキュラムの研究開発と実践を行います。関西学院大学が中心となり、拠点校をはじめとする高等学校等と国外の大学、企業、国際機関等と協働し、Society5.0を牽引するイノベティブなグローバル人材を育成するためのアドバンストラーニングを提供するネットワークを構築。地球と人類に貢献し平和を構築するためのAI活用をテーマに各種取り組みを行います。

関西学院WWLC構想全体図



拠点校としての関西学院高等部の取り組み

- 1 文理科目をバランス良く配置したカリキュラム**
授業・課外活動双方において、平和やSDGsをキーワードとした教科横断型で体系的なカリキュラムを開発。
- 2 グローバル探究BASIC【1年次】**
高校1年次はグローバル探究BASICで、AI活用・国際協働・ハンズオンラーニングの基礎を学ぶ。
- 3 グローバル探究BASICメンバーを核とした必修選択科目【2年次】**
「AI活用演習」「グローバルスタディ」「ハンズオンラーニング」などを必修選択科目として開講し、対象生徒を増やす。
- 4 高校2年次の発展形となる選択科目【3年次】**
国内外のフィールドスタディなどを踏まえ、連携校とそれぞれの知見を活かし、平和構築に向けた国際シンポジウムを開催。
- 5 生徒の主体性を育むeポートフォリオ**
ICT環境を活かし、すべての生徒が授業・課外活動双方において効果的にeポートフォリオを活用する。
- 6 多様な進路の検討**
英語での探究活動や、国内外での研修を経験する中で、海外大学進学などを含めた多様な進路を視野に入れる。
- 7 関西学院大学による講座提供**
関西学院大学による選択科目として様々な講座を提供。一部の科目は大学の単位認定も可能とする。

「凡ての人の僕たれ」

関西学院高等部の源流は、131年前の1889年に関西学院普通学部として誕生した時に遡ります。アジアやアフリカなど世界各地で活動した宣教師で医師でもあったWalter Russell Lambuthによって創立された関西学院は、当初から国際的に開かれた学校であることを使命としてきました。

本校は、「凡ての人の僕たれ」という聖書からの言葉を大切にしています。常に、キリスト教を通して、他者に仕え世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心や真摯な態度を備えた人格を培うことを教育の根幹に据えています。

ますます混迷を深める現在の世界情勢を考える時に、「グローバル化」、「グローバル社会」、あるいは「グローバル人材」とは何かを改めて問い直す必要に迫られています。グローバルと言えれば外の世界に目を向けがちですが、生徒たちには広い世界にはばたくと同時に、国内の諸問題にも関心を持ち、内側にも目を向けることができる真のグローバルリーダーとなって欲しいと考えています。また、これから迎える

Society5.0、その社会において「誰一人置き去りにされない持続可能な社会」を目指すことを目標とするSDGs。その目標達成のために私たちは取り組みます。「他者に、世界に仕える使命感」をこの現代の社会に生かし、また、関西学院の根幹にあるキリスト教主義教育に基づいたスクールモットー“Mastery for Service (奉仕のための練達)”を体現する「世界市民」として、一人一人が「平和な社会を築く担い手」となることを、WWLC事業の目的としています。



関西学院高等部長
枝川 豊

関西学院高等部の学び

"Mastery for Service"

1912年、第4第院長のC. J. L. ベーツが提唱した“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、関西学院のスクールモットーとなっている言葉です。



関西学院創立者
W.R.ランバス



第4代院長・初代学長
C.J.L.ベーツ

キリスト教主義教育

キリスト教主義を建学の精神として、世界的な広い視野と価値観を持って活躍できる人間形成への営みを展開します。

世界市民の育成

世界への奉仕者として生きた創立者W. R. ランバスの精神を継承し、多様な価値観を持ち、グローバルに活躍する人間を育成します。

総合的な「人間力」の成長を目指す

独自のカリキュラムにより、生徒の創造性と自由性を伸ばし、大学で学ぶための学問的素地を養成します。

関西学院大学との高大連携プログラム

AL (アドバンスラーニング) ネットワーク・プログラム

関西学院・関西学院大学では、関西学院高等部をはじめ全国の連携校で形成する「ALネットワーク」において、高校生が果敢にSDGs(持続可能な開発目標)の課題解決にチャレンジできるプログラムを提供しています。

実施内容

- WWL・AI活用人材育成プログラム
- SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等)
- アドバンストプレースメント(単位履修・高大連携科目)
- 関西学院世界市民明石塾
- WWL・SGH×探究甲子園
- 高校生国際交流のつどい
- テーマに基づく国際会議
- リサーチフェア

● AI活用ワークショップ

SDGs(持続可能な開発目標)に関する諸課題に対し、AI(人工知能)を活用して解決策を考えるワークショップ“AI活用 for SDGs”。2019年度は、関心のあるテーマごとに5人1組になって、大学生のサポートのもと、事前学習で調べてきたことをベースに課題解決のためにAIをどのように活用するかを討論。そのうえで、グループごとにアイデアをまとめ、発表しました。



● WWL・SGH×探究甲子園

2019年度まで実施してきたSGH甲子園を発展させて、より世界に広がる学びを意識。地球課題のSDGs(持続可能な開発目標)について深い探究活動を展開することに重点が置かれています。全国各地から集結した高等生たちと切磋琢磨しながら、口頭やポスターでの発表、グループディスカッション等を行い、問題解決能力やプレゼンテーション能力の向上を図ります。



● 関西学院世界市民明石塾

元国連事務次長の明石康氏(2016年度より関西学院大学SGU招聘客員教授)を塾長に迎え、グローバルリーダーの育成をめざし高校生を対象として実施しているプログラム。2019年度は3日間の合宿形式で、全国の高校から選抜された30名の高校生が参加。「Challenges for SDGs!～生命(いのち)～」をテーマに、SDGsから3つの目標を取り上げて議論を交わしました。



様々な高大連携講座の提供

高等部では、自由な選択科目や高大連携科目で自分の興味関心を見つけ、広げることができます。関西学院大学と連携し、3年生の選択科目に大学教授が直接担当する大学入門科目を複数設置しています。また、美術や音楽、時事英語、研究科目ほか多種多様な科目の中から自分の興味・関心に応じた科目を選び、少人数で自主的、主体的に学びます。「教科」の先に広がる「学問」の世界に触れ、学びの原動力となる知的好奇心を育みます。

PICK UP 英語インテンシブ・プログラム

選抜された生徒は、大学の教室で大学生と共に学べる「英語インテンシブ・プログラム」を受講できます。少人数クラス・オールイングリッシュで実施され、グループワーク等を用いた能動的学習環境が整っています。



3年間の学びのステップ

—1年次 グローバル探究BASIC～2・3年次授業における取り組み—

SGHからWWLCへ

WWLC 2019年度～ "AI活用 for SDGs"「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」
～Society5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト～

▶▶ 1年次

グローバル探究BASIC(選抜35名) 年間学習内容 <社会を知る・社会の中の自己を知る>

第1フェーズ

SDGsの概念や、17のゴールについて理解を深めます。身近な社会で起こっているSDGsの問題に目を向け、その解決策を見出していく中で、自分たちの生活に結び付けて考えることの大切さを理解します。



第2フェーズ

フィールドスタディを通して地域において様々なSDGsの取り組みをしている団体や人々の生の声を収集します。グループで協働してその現場を訪問することで、社会との接点を作り出す経験をします。



第3フェーズ

フィールドスタディで経験した「社会を知る・社会の中の自己を知る学び」を発表内容にまとめる過程の中で、これからの社会で高校生である自分たちが起こすべきアクションの方向性について考えを発展させます。



ソーシャル探究 (1年生全体)

ソーシャル探究は、1年生が学年全体で取り組んでいる活動であり、3学期の毎週1時間を利用して、様々な社会問題(ソーシャルイシュー)について知識を深め、自分たち自身でその問題についてリサーチし、その解決策について発表を行う活動です。フードロスや異常気象、エネルギー問題等9つのソーシャルイシューの中から、興味ある問題ごとにグループを構成し、学期の最後には各クラスから選ばれたグループがそれぞれの関心のある社会問題についてパワーポイント等を用いてプレゼンテーションを行います。



SGH
2014～
2018年度

「国際化重点大学との高大連携による
実践的課題解決能力の育成」

VOICE

自ら学び進める面白さへの気づきから
本当の学びが始まります。

グローバル探究担当 西室 雅央 教諭

グローバル探究BASICでは、SDGsの17の目標から生徒たちがそれぞれ興味のあるテーマを選び、自分たちにできることを探究していきます。フィールドスタディでは、企業、NGO、NPO、地方自治体など、実際にSDGsに取り組まれている団体を訪問し、現場の方々のリアルな声や熱い思いに触れることで、社会的課題を自分ごととして捉える意識を高めます。まだ知らない世界が広がっていること、また主体的に学び進める面白さに気づくことによって、高校生活やその先での取り組みがより発展的なものになるでしょう。



SDGsのために自分ができると
考える姿勢が身につきました。

2019年度 グローバル探究BASIC受講生 西久保 凜

フィールドスタディでは、関西で女性の社会進出に熱心に取り組んでおられる企業を訪問しました。「女性だからできない」のではなく「女性だからできること」で活躍されている方々のお話を伺い、固定概念やイメージに捉われている社会や自分自身に気づくことができました。グローバル探究BASICのメンバーは自分の意見をしっかり持っているので多様な考え方に触れることができ、また自分の見識を高める刺激にもつながります。2年生からはグローバルスタディの授業を選択し、さらに自分の世界を広げていきたいです。



▶▶ 2・3年次

グローバル探究A

AI活用

平和を構築するためのAI活用技術を身につける

これからの社会でますますその重要性が増すAIについて学び、そのAIを活用して様々な課題を解決する技術を学ぶことを目的とした授業です。実際にAIを利用している企業への訪問等を通して、AIを活用する技術を学んでいきます。



グローバル探究B

ハンズオン ラーニング

現場で学び、社会的課題への当事者意識を育む

「教室を出て社会に学ぶ」ことを通じて、「平和」や「人権」という大きなテーマに真正面から取り組みます。戦争やエネルギー問題などの具体的な社会的課題に対する自分なりの答えを探るべく、まずはローカルな視点を持って探究を始めていきます。



グローバル探究C

グローバル スタディ

外国の高校生とつながる探究と実践のプログラム

オンラインディスカッションを用いて、外国の高校生と共に身近な社会問題の解決に取り組むPBL型授業です。問題を感じとり、分析・議論し、解決策を企画・実行する中で、多様な価値観を越えての協働と探究の学び、そして実践的スキルを深めていきます。



海外フィールドワーク

カンボジアを訪問し、現地の人々との交流によりその歴史や社会的な問題について体感します。また、現地で活躍するNPO団体等の見学を通して、様々な国際援助の形を学びます。



インドネシアハラパン高校との 通信型授業

インターネットによる映像通信を利用した教育プログラム。異なる価値観を持つ同世代の人々と協働しながら、社会問題をテーマに課題点を見出し、その解決に向けた企画を立案・実行します。



Meal for Refugees (M4R)

難民の出身国料理を食堂で提供し、食を通じて難民問題への理解を深めるプログラム。担当する生徒たちが全体スローガンの考案をはじめ、メニューの決定、アンケート、啓発活動などを実践します。



今後の活動計画

WWLCの諸活動を起点とした先進的なカリキュラムの研究開発と実施

全学年において文理科目をバランス良く配置し、授業・課外活動双方において、SDGsをキーワードとした体系的なカリキュラム開発を試行すると共に、下に示したような様々なキーワードをもとに、学校全体としてWWLC活動に取り組んでいきます。

WWLC × ICT(情報通信技術)

ICTの活用で、より効果的な探究学習を進めていきます

全員がタブレット端末を持つ高等部においてICTは、学校からの各種連絡を受け取ったり、各授業での情報収集やプレゼン作成に使用する等、既に学校生活の基本ツールです。WWLCの活動においても様々な場面でICTが活用されています。例えば学校内だけでなく他校のメンバーとチームでプロジェクトを進める際の進捗管理や、大学生や社会人のアドバイザーからアドバイス等をもらう際のコミュニケーションツールとして。また、授業・課外活動双方において、ICTを用いたポートフォリオを活用する仕組みを作り、生徒が質の高い振り返りを重ね、次の活動につなげられるようにして、主体性を育んでいく実践を行っています。



WWLC × 読書科

高等部伝統の読書科との連携で、探究学習を深化させます

40年以上の伝統のある、高等部3年間をかけて自分の好きなテーマで論文を書き上げる「読書科」の授業。特にWWLCの各科目を受講する生徒は、読書科での「課題設定」と「リサーチ」と、WWLCでの「フィールドに出るの学び」を結び付けて、より深い学びを目指します。



WWLC × 高等部のあらゆる場面で

日々の学びの中にSDGsの考え方を浸透させます

最終的には高等部における教育活動すべてが、WWLCの活動と関係してくると考えています。例えば、高等部が大切にしている礼拝の時間でも、キリスト教の教えのもとに、途上国への援助やジェンダーの問題等に取り組んでいる方々の活動に触れる機会が多々あります。また、各学年の人権講座やホームルーム・宿泊行事を、SDGsをキーワードに連動させていく試みも行っています。



このように、関西学院大学への院内推薦に支えられて、自分のやりたい事を見つけ、存分に打ち込める伝統的な高等部の学びを、より深め、進化させていくのが、関西学院高等部のWWLC活動になると考えています。